


# 稲・麦・大豆かわら版

2022. 10. 21 発行  
栃木県塩谷南那須農業振興事務所  
☎0287-43-2318  
<http://www.pref.tochigi.lg.jp/g55>

麦類編 Vol. 1

 **適期内に麦の播種を行きましょう！**

 **麦踏等の基本作業を行い、寒冬に備えましょう！**

もうすぐ麦類の播種時期となります。昨年産の結果を踏まえ、以下の点に留意して準備を進めましょう。

## 1 今後の天気

関東甲信地方3か月予報(令和4年9月20日気象庁発表)によると、気温が平年より低くなる確率は12月で40%と予想されており、寒冬になる可能性が高いです。また、11月、12月の降水量は、平年並から少ない確率が高く、平年と同様に晴れる日が多くなると予想されています。12月以降の低温に注意し、計画的に播種作業、初期生育管理を行きましょう。

## 2 今後の作業・管理

### (1) 播種

**県北の播種適期は、11月1日～15日です！**

- ◇ 年内に葉齢3葉程度(播種後の積算気温約300℃)を確保できる時期に播種しましょう。
- ◇ 関東甲信地方の長期予報(3ヶ月予報)では、平年と同様に晴れの日が多くなる見込みです。早めに計画を立て、適期内に播種を終わらせましょう。

### (2) 踏圧

麦の生育を調整する重要な技術であり、その効果は下記のとおりです。年内に最低1回、年明け～茎立期直前に必ず2回実施しましょう。

- ① 地上部の過剰生育を抑制しながら、分けつを旺盛にし、根張りを良くし、また茎葉汁液濃度を高めて耐寒性を増大させる。根の起上りを減らし、凍上害を防止する。
- ② 年明け～茎立期直前(3月上旬)の実施は、暖冬年での茎立ちの早期化を抑え、春先の低温による幼穂凍死を回避する効果が期待できる。

### 3 雑草防除

難防除雑草は、初期発生で防除しないと後々繁茂し、作物の大幅な減収や蛋白質含量の低下を引き起こします。麦の高品質、安定生産を保つためにも、以下のとおり早期雑草防除を徹底しましょう！

#### <防除のポイント>

- ◇ 播種前に、非選択性除草剤で出芽した雑草個体を防除！
- ◇ 播種後、各種発生雑草に対応した除草剤を散布！

～代表的な雑草対策～

#### ① スズメノテッポウ

水田裏作麦の主要な強害雑草で、一部の除草剤に対して薬剤抵抗性を獲得している。

##### <対策>

- ・ 抵抗性スズメノテッポウに有効とされる除草剤(ボクサー、ムギレンジャー乳剤、バンバン細粒剤Fなど)への切替え。
- ・ 播種前に、麦類に登録のある非選択性除草剤で出芽した雑草個体を防除し、播種後に上記の対策除草剤を散布する。
- ・ 播種する際は、土壌の下層にある雑草種子を表層に移動させないように注意する(浅耕(5cm)播種が有効)。



#### ② ヤエムグラ

アカネ科の越冬草で、繁茂すると減収だけでなく、麦の倒伏や農機への絡まりによる作業効率低下の要因となる。

##### <対策>

- ・ 広葉雑草対象の茎葉処理剤を散布する。特にアクチノール乳剤、エコパートフロアブルは効果が高い。



農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！



身支度も  
万全にし  
てまる！

- ① 農薬容器のラベルをよく読み正しく使う
- ② 農薬の飛散防止を徹底する
- ③ 農薬の使用状況を正確に記帳する